



もくじ

こいびと——表紙の生産者をご紹介
安佐北区安佐町小河内
加納 愛さん 2

特集
第28回
JA広島県大会開催
組合員とともに自己改革で
未来を創る 4

特別企画
「JAの自己改革に関する
組合員アンケート」への
ご協力をお願い 6

●JA広島市通信 8

●ふれあい掲示板 10

●変わるんJA [第10回] 11

あなたの暮らしに支店便り [第5回]
戸河内支店 12

JAヘルシークリニック
入浴中の事故に注意 13

松田麗子の
台所からこんにちは
削りニンジンと鶏肉の
きんぴら風 14

はじめての家庭菜園
ジャガイモ 15

●わが家のスター 16

●おしゃべり広場 16

●クロスワードパズル 17

●JA広島市 情報BOX 18

●ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 20

本誌タイトル「こいぶみ」とは、
JA広島市の気持ちをまっすぐに、
組合員をはじめ多くの人に届けるため、
広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。
「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、
多くの人に呼んでもらえる「来い」、
情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。



子育てよりも、手がかかる。
そこが、やりがいであり楽しさ。

大きくなりすぎても出荷できないため、見極めが大切。



ハリがあり、肉厚なコマツナ。採れたてはサラダもおすすめ。



作業台の上には一束ずつ、きれいに積み上げられたコマツナが。



作業を手伝ってくれている、姉の朋子さん(右)と由香利さん(左)。

My History

マイ・ヒストリー
2014年 「K's FARM」でパートタイムとして働く
2017年 4月 ひろしま活力農業経営者育成事業に応募
2018年12月 「まるしん農園」開園



まるしん農園の
ロゴマーク

My Hobby

マイ・ホビー
子どもたちと一緒にバトミントンをする。こと。いいリフレッシュになります。

子どもたちの習い事の送り迎えや、学校行事をこなしながらの農作業に日々奮闘している加納さんが自分に言い聞かせているのが「女は根性！」という言葉だ。「以前は小さな虫も苦手、家に虫が出ると逃げていました(笑)。しかし、農業を始めると苦手だと言っただけでありません。力仕事もありますが、女は根性！と奮い立たせています」。

さらに現在は、JA広島市管内で農業に携わる女性の交流を目的に昨年11月に立ち上がった「農業女子ネットワーク」を通じて、女性農業者と意見を交換している。普通の主婦ならば、話題は最近見たドラマ

背中を押してくれる家族と一緒に

「初めて自分から夢中になれたもの、それが農業でした」。そう語るのは、「ひろしま活力農業経営者育成事業」初の女性研修生で、昨年12月に安佐北区小河内で新規就農者としてスタートを切った加納さんだ。

まで感じたことない程のやりがいがあり、日々成長する野菜に寄り添うことが楽しかった。

そこから、加納さんは自身の農園を持ちたいと一念発起。「ひろしま活力農業経営者育成事業」に応募した。これまでに女性研修生がいなかったと知り「女性には厳しい仕事なのか」と不安に思った。しかし、肥料や農業について学び、実際に圃場を使っての実地研修などを体験することで、次第に農業の世界にのめりこんでいった。

主婦から女性農家へ、新しい道に挑戦

「初めて自分から夢中になれたもの、それが農業でした」。そう語るのは、「ひろしま活力農業経営者育成事業」初の女性研修生で、昨年12月に安佐北区小河内で新規就農者としてスタートを切った加納さんだ。

こいびと——表紙の生産者をご紹介

加納 愛さん
(36歳) 安佐北区安佐町小河内

広島市中部から車で約1時間。山あいを進んだ先にある安佐北区小河内は、畑やハウスが広がり、新規就農者も比較的多い地域だ。加納さんは、この地で主に葉物野菜の栽培を行っている。3人のお子さんを育てる母としての顔も持つ加納さんが農業の道に進んだきっかけとは…女性目線からの農業について伺った。

「心」という文字が大きく丸で囲まれた「まるしん農園」のロゴ。これは、子どもたち全員の名前の漢字に「心」がついていることが由来している。この農園の名前のように、真心を込めて、家族一丸となって、これからは愛情をたくさん込めた野菜を作り出していく。

「心」という文字が大きく丸で囲まれた「まるしん農園」のロゴ。これは、子どもたち全員の名前の漢字に「心」がついていることが由来している。この農園の名前のように、真心を込めて、家族一丸となって、これからは愛情をたくさん込めた野菜を作り出していく。

もともとは、1男2女の母として子育てとパートをこなす、ごく普通の主婦だった。しかし、新しいパート先として行った農家での経験が、加納さんの運命を変える転機となった。ママ友から誘われ、最初は軽い気持ちで臨んだ農業。収穫から出荷まで、いろいろな作業を任せられる中でその思いは一転した。これ

「農家あるある」
「な悩みや現在の作業状況の話で盛り上がるのだとか。」

ついに念願だった自分の農園「まるしん農園」を開園した今、加納さんの2人の姉と母親が出荷作業などの手助けしている。「うちは、まさに家族経営。子どもたちと旦那も、私が農業を始めたいと言った時からずっと応援してくれました。私が圃場から帰ると長女がご飯を作ってくれているなど、家のことを手伝ってくれるのでとても助かっています」。

好きな言葉
女は根性！
愛嬌、度胸だけでなく、女性の根性を見せます！

